委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名　財団法人海外技術者研修協会

1　事業の趣旨・目的

足立区内の日本語教室に参加する外国人の要望にあわせた日本語学習の内容と学習方法を体系的に理解して、実践できるボランティアを養成する。

2　企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月15日 15:00 ～17:00	AOTS 東京研修センター	大島浩司 吉田聖子 手島利恵 春原憲一郎 川上哲司 神吉宇一 杉山充	講座カリキュラムの検討	足立区における外国人区民の状況・H21年度足立区多文化共生実態調査概要のレビュー・日本語ボランティアグループへのヒアリング結果等の資料に基づき、講座で想定する参加者設定・カリキュラムのねらい・講師陣・参加者募集方法・期待される成果について検討を行った。
11月16日 15:00 ～17:00	AOTS 東京研修センター	大島浩司 吉田聖子 手島利恵 春原憲一郎 川上哲司 神吉宇一 杉山充	講座の成果と課題の総括	各回の講座実施内容・受講生からのアンケート評価・実施主体による自己評価等の資料に基づき、講座の参加を通じて受講生が身につけたこと、現場での活動に役立った講座内容、また講座の改善点について議論を行った。

【委員会写真】

3 研修講座の内容について

（1） 研修講座名：

日本語ボランティア養成実践講座

（2） 研修の目標：

・足立区内の日本語教室に参加する外国人の要望にあわせた日本語学習の内容と学習方法を体系的に理解して、実践できるボランティアを養成する。

・地域のボランティアが学校型の日本語教師・日本語教育の専門家を目指すのではなく、地域活動として、市民として何ができるのかを考えて実践できるようにする。

（3） 受講者の総数　　26人（日本26人）

（4） 開催時間数（回数）　30時間（10回）

（5） 参加対象者の要件

・足立区で日本語ボランティアに携わっている人、又はこれから足立区で日本語ボランティアとして活動したい人

・原則として講座に毎回参加できる人

（6） 受講者の募集方法

・あだち区報（足立区全世帯へ区役所から配布される）および足立区ホームページでの募集

・足立区にある１８の日本語ボランティアグループへ募集チラシを郵送

（7） 研修会場

ア　講義：AOTS 東京研修センター

イ　実習：AOTS　東京研修センターおよび足立区内で活動している日本語ボランティアグループ

（8） 使用した教材・リソース

・講師が作成したパワーポイント資料、ワークシート、ケーススタディ資料など

・『にほんごボランティア手帖』『にほんごボランティア手帖すぐに使える活動ネタ集』

・『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』

・各種日本語教科書（『みんなの日本語』『すきなもの・すきなこと』『はじめまして』等）

・レアリア（地図、写真、レシート、区や小学校の通知物等）

（9） 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
7月16日 13:00 ～14:00	足立区の外国人支援やボランティア教室の現状 足立区の日本語ボランティアグループの活動状況や外国人相談窓口での相談内容等の紹介を通じて、足立区における外国人生活者の問題について情報を共有した。	足立区外国人相談員 柳啓華	26名
7月16日 14:00 ～16:15	地域の課題と支援の目的・方法 地域に生活する外国人に関して人数・出身国・在留資格等の基本的な情報を提供。本講座の内容や受講上の注意点についても説明した。	AOTS 日本語教育センター上席日本語専門職 神吉宇一	26名
7月23日 13:00 ～16:15	地域での様々な外国人支援 講師の運営するNPO法人の活動内容、多文化共生の定義、日本の多文化共生の状況、日本語支援以外の外国人支援活動の事例等を紹介した。コンセンサス（合意形成）を図るためのワークショップを行った。	多文化共生リソースセンター東海代表理事 土井佳彦	25名
7月30日 13:00 ～14:30	外国語学習体験 実際に絵カード等を使いながら直接法によるインドネシア語の学習体験を行い、初学者の直面する問題点について考えた。	東京外国語大学非常勤講師 スリブディレスタリ	22名
7月30日 14:45 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法①「初級学習者への対応」 初学者が最初に学ぶ学習項目の事例や利用可能なリソースを紹介し、コミュニケーションを成立させるための方法を検討した。	AOTS 日本語講師 鈴木修子	22名
8月13日 13:00 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法②「会話とコミュニケーション」 ボランティアとしての自分のスタイル	東京外国語大学多言語多文化教育研究センター・	21名

	を理解し、自分の強みを生かした活動について考えた。身の回りにあるものを活用した活動の仕方についてのミニワークショップを行った。	フェロー 吉田聖子	
8月20日 13:00 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法③「語彙・文法」 形容詞のグループ分けや類義語の違いが理解できるような例文作りの活動を通じて「日本語を外国語として捉える」ことを理解した。	AOTS 日本語講師 奥村裕子	21名
8月27日 13:00 ～14:30	現場で役立つ日本語支援の方法④「発音」 コミュニケーションにおける音声の役割やわかりやすく気持ちが伝わる発音練習方法など、韻律的特徴に注目した支援の方法を紹介した。	元 AOTS 日本語教育センター職員 羽澤志穂	22名
8月27日 14:45 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法⑤「やさしい日本語を考える」 「やさしい日本語」が注目されている経緯やその留意点の紹介を行い、区からのお知らせ文書のリライトを体験した。	元 AOTS 日本語教育センター職員 布尾勝一郎	22名
9月3日 13:00 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法⑥「教材の使い方／実習・個人課題説明」 日本語の市販教材のタイプや教科書選定の仕方について議論を通じて学んだ。9月の実習課題について説明を行った。	AOTS 日本語講師 小川美紀 村上まさみ	21名
9月4日 ～9月30日	1）実習：ボランティアグループの訪問・学習支援体験 足立区の日本語ボランティアグループを各自で訪問し見学および学習支援体験を行い、レポートを作成した。 2）個人課題：素材探しのケーススタディー	受講者各自による	20名

	講師が設定したある教室に通う学習者に対し、適切な素材と学習プランを考えた。		
10月1日 13:00 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法⑦ 「個人課題の振り返り/素材の使い方」 課題の振返りと、ボランティア教室における学習素材の利用目的・活用方法・選び方について議論を行った。また具体的な学習者のケース毎に適切な学習素材について検討した。	AOTS 日本語講師 小川美紀 村上まさみ	20名
10月15日 13:00 ～16:15	現場で役立つ日本語支援の方法⑧ 「学習の全体像を考える」 日本語支援を行うにあたって、数回の授業で何をするかという全体像の確認と、1 回の授業で何をするかという授業の構成について、資料をもとに参加者同士で考えた。	AOTS 日本語教育センター上席日本語専門職 神吉宇一	19名
10月22日 13:00 ～15:15	地域におけるビジネス日本語教育 就労者に対するビジネス日本語教育の基本的な考え方を紹介した後で、前回の活動を生かして就労者向けの学習テーマのメニュー作成活動を行った。	政策研究大学院大学准教授 近藤彩	19名
10月22日 15:15 ～16:15	「研修のまとめと振り返り・日本語ボランティア活動への期待」 足立区の現状と今後のボランティア活動への期待。また文化庁の地域日本語教育の取り組みの紹介から、今後の地域住民活躍の可能性について話をした。	足立区多文化共生係長 大島浩司 AOTS 日本語教育センター長 春原憲一郎	19名

（10） 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

1）講座全体について

ア．どの程度役立ったか

「大変役立つ」　６２．５％

「少し役立つ」　２５．０％

「どちらでもない」　６．３％

「あまり役立たない」　６．３％

「全く役立たない」　０．０％

→全体的に好評であったと評価できる。

イ．講座に関する肯定的な意見

大変勉強になった、講師の周到な準備に感謝、他のボランティアも受講してもらいたいといった意見があった。

「とても学べることが多く、貴重な経験に感謝している」

「まだ養成講座を受けていないボランティアの方々に是非受講してもらいたい」

「講師の皆様他、貴重な知見を周到な準備の上に、開示頂き感謝したい」

ウ．改善点等に関する意見

より実践的・具体的な内容を望む意見があった。

「具体的な日本語に対する質問への対処法が学べるとさらによかった」

「やはり言葉を教えるボランティアなので教授法をもう少し加えて欲しかった」

「具体的な例をもっと紹介してくれると理解がしやすかった」

2）各講義について

毎回の講義終了後に行っているアンケートおよび全講座終了時のアンケートにおいて、特に評価の高い講義は以下の４つであった。

第２回 地域での外国人支援

第３回 地域での様々な外国人支援

第４回 会話とコミュニケーション

第９回 学習の全体像を考える

→第２回は「多文化共生」の意味の理解、日本の多文化共生の推進具合、他地域で行われている様々な外国人支援の活動のバリエーションを知ることができ、受講生のモチベーションアップにつながったと考えられる。

→第３回の講義内容は、学習者の立場になって直接法によるインドネシア語の授業を体験するというもの。学習者の気持ちや外国語学習の困難点について体験を通じて理解できる点で効果的であった。

→第４回と第９回については実際の教室でどのような活動を行うかを具体的に体験し、かつ受講者自らが活動やカリキュラムを考えるワークショップが「実践的で

ある」という点で好評であったと言える。

② 実施主体からの研修内容結果評価

1）講座の内容・カリキュラム

良かった点：

・多文化共生の概念や「共に学びあう」という姿勢を養い、具体的な活動内容やカリキュラムの基礎的な内容について体験を通じて理解を促すことができた。

・日本語の支援の基礎的な知識だけではなく、受講者の得意な分野（例：料理、音楽等）を活かした活動や、区からのお知らせをやさしい日本語にリライトするなど、様々な形態があることを認識させることができた。

・実習（日本語グループの見学・活動体験）により、足立区にある各ボランティアグループの活動内容、代表者の考え、学習者の多様性について体験を通して理解を促すことができた。

・学習者の多様性だけでなく、ボランティアの担い手の多様性についても相互に理解し、ネットワーク構築に寄与できた。

改善すべき点

・ボランティア経験者と未経験者の異なるニーズへの対応が必ずしも十分とは言えなかった（一部の講義については、経験者にとっては既知の内容となってしまった）。もちろん、経験者と未経験者が混在することで議論が活性化する場面も見られた。

・実習に関しては、時期を前倒しして、未経験者が早く現場のイメージを形成できるよう配慮することも考えられる。

・さらに実践的な研修手法を多く取り入れたカリキュラム設計が求められる。

2）講師陣

良かった点

・足立区の多文化共生係の協力を得ることができ、足立区の外国人支援の現状や課題について受講者が理解を深めることができた。

・様々な講師が講義を担当し、各講師が持つ各地域での実践経験や活動理念等を紹介することで、外国人支援活動の多様性について理解を促進することができた。

改善すべき点

・講座の回数を重ねるにつれて、次第に明らかになってくる受講者の学びのスタイルについて、全ての講師がそれらを把握することに限界があった。

3）事務局運営面

良かった点

・講座実施前に、本講座の意図、各講義のねらいについて文書化し、全講師に送付すると共に、講師の求めに応じて打合せ会議を行った。各講師が講座の全体像を

理解したうえで担当回を組み立てられるように配慮した。

・毎回、講師が異なるため、講義の内容・講義資料・受講者の雰囲気・主な質疑内容・受講後のアンケート結果について、各講義終了後にメールで全ての講師と共有を図った。

改善すべき点

・体調不良や留学等やむを得ない理由で辞退する人がいた。受講期間が長いので、欠席者に声掛けをするなど、講座途中での辞退者を減らす工夫も必要ではないか。

4)その他、委員会における委員からの主なコメント

・受講者の講座に参加する姿勢がバラエティーに富んでおり、受講者同士で刺激を与え合ったことが良かったのではないか。

・受講者の男女比と世代比を把握したほうがよい。ジェンダー内でも世代間のコンフリクトがある。地域の外国人支援の取組について世代交代をどうするか、どう次の世代に継承していくかが人材育成の設計にも関わってくる。

・受講者はボランティアグループを訪問して外国人区民の実状、グループ間の活動の多様性、足立区内の地域差など、初めて気づくことがあったようだ。本講座の受講を通して、地域の実情を理解するきっかけになったのは大きな成果だ。

・日本人側の意識が変わらないと外国人支援は変わらないので、もっと「共に学びあう」というメッセージを強く出してもよいのではないか。

・今回の受講者は全員日本人であったが、受講者募集の仕方を工夫し外国人が支援者側として入ってきたらもっとよい。

・外国人支援は、どんな町を作りたいか、自分たちのコミュニティーをどういう地域にしたいかという議論と関連付けて考えていく問題だ。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

・本養成講座の継続的な実施について人件費負担等、予算上の課題も含め、財団内部で再検討を行う。

・足立区とのさらなる連携について模索を行う。

・財団の他拠点（横浜市・豊田市・大阪市）での展開について検討を行う。

（11） 事業の成果

① 他事業との連携

本財団の主たる事業は海外から招聘した技術研修生に対する研修であり、地域在住の外国人住民に対して、直接的に日本語支援事業を実施する予定は、現在のところは未定である。しかしながら、今回の講座に参加してくれた参加者には、今後、技術研修生の日本語研修の会話パートナー等として協力してもらうことを想定している。また、財団の地域貢献の一環として、研修センターに宿泊する研修生と地域住

民が交流できる行事も開催している。受講者に対してはこうした行事への協力も積極的に働きけていきたい。

② 研修後の人材活用

・本講座の受講者はそのほとんど日本語ボランティアの経験の無い者であったため、受講後の活動予定について尋ねた。

既にボランティアグループに参加している・・・５名
既存のボランティアグループに参加する　・・・９名
どのグループかは決めていないがいずれ参加するつもりだ・・・３名
活動は未定・・・１名

・未経験者のほとんどが新たに活動を開始する予定となっており、講座で学んだ様々な外国人支援の方法を足立区内において実践していくことが期待できる。

・足立区には１８のボランティアグループが活動しているが、必ずしもグループ間の連携が活発に行われているわけではない。本講座で知り合った者が異なるグループで活動することにより、グループ間の連携や情報交換を活発化する役割が期待できる。

（12） 今後の課題

1）足立区における外国人支援について

・日本語ボランティアのグループ間のネットワーキング強化により、個人に埋もれがちの経験や知見を共有し、ボランティア全体の底上げを図る仕組みが求められる。

・区を越えた地域間のネットワーキングにより、他地域の先進事例やベストプラクティスを取り込むことが必要ではないか。

2）「「生活者としての外国人」のための日本語教育事業」について

・新規にボランティア養成を実施する団体や内部リソースが不足している団体等が参考にできる「良好案件」の紹介や、本事業実施者同士の情報交換の場があれば、事業の質的な向上が期待できるのではないか。

・「「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム」に関して、ボランティア養成講座の中でも活用できるような取組みが必要ではないか。

・事業の規則として「受託団体に所属する職員等に対する支出は原則として認められない」となっている。しかし、受託団体は委託契約事務手続き、経費支払・精算、報告書作成、委員や講師の手配・調整、講座運営管理等、必然的に人件費が生じる。受託団体職員に対しても委託費からの人件費支出が認められれば、講座の安定的な実施とさらなる質の向上が期待できるのではないか。

以上